

情報共有**本店レク**

(4枚)

本店レク 議事メモ

日時：平成23年4月9日（土）11:00～11:40

場所：東京電力本店1階101A会議室

先方：記者約40名（カメラ6台）

当方：原子力設備管理部

広報部

配付資料

- ・東北地方太平洋沖地震による影響などについて（4月9日 午前9時現在）
- ・福島第一原子力発電所 1～3号機プラント状況
- ・福島第一原子力発電所モニタリングカーによる計測状況
- ・福島第二原子力発電所モニタリングによる計測状況

質疑：

Q. 1号機の給水ノズルの温度と、CAMSデータが反映されていない理由は。

A. 計器の故障だと考えており、故障した原因は調査中。

Q. 集中環境施設および5、6号機サブドレンからの海への排水実績は。

A. 集中環境施設プロセス建屋については、現在放出継続中。高温焼却炉建屋については昨日昼から開始して、昨日22時20分頃、放出を終えている。現在の放出量としては合計7,700トンを放出している。残水800トンについては、昨日23時45分頃から放出開始しており、本日夜頃までかかるものと考えている。

5、6号機サブドレンの放水は、9日6時現在では暫定値ではあるが約1,300トンを放出しており、残り200トンの放水はポンプ1台で慎重に実施しているところ。順調に進めば、10日中には終了する見込み。

Q. プラントパラメータを見ると、2号機の炉圧がマイナス表示であることや、2号機のドライウェル圧力が大気以下になっているが、ドライウェルや圧力容器が損傷しているのではないか。

A. 水位が急激に変わっているわけではないので、圧力の値だけをもって健全性を評価できるものではない。

Q. 本日の無人ヘリの飛行はどうなったのか。

A. 現地が悪天候のため、本日の飛行は中止になった。

Q. 無人ヘリの用途は。

A. カメラによる映像撮影を行うことや、建屋上部や周辺の線量測定などを実施することも検討している。

Q. 無人ヘリのメーカーと型式は。

A. 米国の小型無人ヘリコプターで、名前はティーホーク (T-Hawk)。製造者はハニーウェル。操縦範囲が 10km で、後続時間が 50 分。

Q. 明日は飛行するのか。

A. 現在、検討中。

Q. ハニーウェルの関係者の滞在先はどこか。

A. 確認させていただく。

Q. 封入する窒素濃度はどの程度に上げたのか。窒素封入量と、圧力は。

A. 昨晩、98%から 99%に濃度を切り替えた。窒素封入量は約 28m³/h で封入している。ドライウェル圧力は約 195kPa。

Q. 濃度を上げたのはなぜか。

A. より性能の高い装置が手配できたことから切り替えを実施したもの。

Q. 別の装置を使っているのか。装置の切り替えについては、原子力安全・保安院の了解を得ているのか。

A. 別の装置を使用しており、原子力安全・保安院にも相談のうえ、取り替えていく。

Q. 現地の天候が悪いようだが、トレーニングの水かさが増さないように立坑を塞ぐ等の対策はとっているのか。

A. 特段情報は入っていないが、確認させていただく。

Q. 1～4号機のタービン建屋を貫通させる作業は終了したのか。

A. タービン建屋壁面貫通部のボーリングは7日に実施済み。ホースの敷設はまだ実施していない。

Q. 今日作業は実施するのか。

A. 本日実施するものと思われるが、詳細は確認させていただく。

Q. 2号機ピットの止水作業の鉄板は設置したのか。

A. 確認させていただく。

Q. トレーニングの最新の水位は。

A. 1号機トレーニングは 107cm (4/9 7:00)、2号機トレーニングは 94cm (4/9 7:00)、3号機トレーニングは 125cm (4/9 7:00)。

Q. 1、2号機タービン建屋地下の水位は。

A. 1号機は 254mm (4/8 23:00)、2号機は 1,100mm (4/8 23:00)。

Q. トレンチ、タービン建屋、炉内への注水量の実績を集約して表にして欲しい

Q. トレンチに溜まる速度に変化はあったのか。

A. 水位によって断面積も異なることから一概に言えない。

Q. T/B の地点毎の線量を示してほしい。

A. 確認する。

Q. 配付資料（「本店時報」）の 8P の記述が変わっているのではないか。具体的には、集中環境施設の建屋内に溜まった水を 4号の T/B へ移送した後、3号のトレンチの水位が 15cm 上がったとなっているが、以前の記載は 3号 T/B の水位が上がったではなかったか。いつから変わったか。

A. 確認する。

Q. 「プラント状況」に記載されている、1F1 の “温度” “CAMS(D/W)” の調整中の部分は、“計器不良”ではなく“計器不良の可能性がある”という状態であれば、数字をきちんと出した方がいいのではないか。

A. 確認させていただく。

Q. 同じ箇所で、4/8 6:00 の数字は正しいと考えているのか。

A. 併せて確認する。

Q. 5・6号機のサブドレン排水により、T/B の水位に変化は見られるのか。

A. 確認させていただく。

Q. 集中ラドへの移送は、各号機の溜まり水をホースで合流させて送るのか。

A. 各号機専用のホースで送る。集中ラドの中では水は合流する。

Q. 3号のトレンチの発見時の水位は。

A. 3号機で 155cm (4/1 11:00)。

Q. 集中環境施設と 5・6号のサブドレンから海への放出量の合計は 10,000 トンということでしょうか。数字が変わったのなら、改めて総ペクレル数について教えてほしい。

A. 10,000 トンでよい。もともと 11,500 トンを予定していたが少し減ったもの。ただし、排水が完了した段階で排出量を確定することから、すべて完了した時点で総ペクレル数についてはお伝えしたい。

Q. 2号機の溜まり水の増加量を見積もってほしい。他の号機についてもお願ひしたい。

A. 確認する。

Q. 集中ラドの排水が完了したら、各号機T/Bからの移送を開始するのか。

A. 排水完了後、集中ラドの点検を行うことから、今日明日に移送を開始することはないと考えている。

以上